

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.7/19(月)～R3.7/25(日) 令和3年第29週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
陽性者数	① 合計	1156人	831人	-	-
	② 対人口10万人	75.1人	54.0人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.39	1.58	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		70%	61%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率（%）		37.2%	20.2%	5%以上	10%以上

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>		7/25現在	7/18現在	-	-
⑥ 入院患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	113人	99人	-	-
	確保病床数	284床	284床	-	-
	病床使用率	39.8%	34.9%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 ^{※1} (陽性確定例)	入院中の患者数	13人	13人	-	-
	確保病床数	30床	30床	-	-
	病床使用率	43.3%	43.3%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	1325人	935人	-	-
	⑨ 対人口10万人	86.0人	60.7人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※3} 指標	ステージⅣ ^{※3} 指標
<報告日>	7/25現在	7/18現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※2} （%） ＝入院中の患者÷療養者数（陽性確定例）	8.5%	10.6%	40%以下	25%以下

※1 入院患者及び重症患者並びにその病床数は、令和3年5月4日公表分から、「疑似症患者を含む」から「陽性確定例」に変更して公表

※2 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院優先度判定スコア等を用いて入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

※3 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

<変異ウイルス検出状況>

(1) スクリーニング検査（変異ウイルスの検出状況）※4

ア N501Y スクリーニング検査

		直近1週間 7/19 ~ 7/25	前週 7/12 ~ 7/18	累計 3/11 ~ 7/25
川崎市健康安全研究所	検査実施数	0件	82件	1,084件
	検出数	0件	53件	773件
	検出率	0.0%	64.6%	71.3%
民間検査機関等※5	検出数	0件	1件	416件

イ L452R スクリーニング検査

		直近1週間 7/19 ~ 7/25	前週 7/12 ~ 7/18	累計 3/11 ~ 7/25
川崎市健康安全研究所	検査実施数	109件	20件	157件
	検出数	52件	20件	91件
	検出率	47.7%	100.0%	58.0%
民間検査機関等※5	検出数	57件	29件	103件

(2) ゲノム解析等※6（変異ウイルスの鑑別状況）

	直近1週間 7/19 ~ 7/25	前週 7/12 ~ 7/18	累計 3/11 ~ 7/25
α株（アルファ）：英国株	18件	0件	203件
β株（ベータ）：南アフリカ株	0件	0件	0件
γ株（ガンマ）：ブラジル株	0件	0件	0件
δ株（デルタ）：インド株	1件	0件	9件

※4 従来株から N501Y 変異株にほぼ置き換わった一方、市内においても L452R 変異株が増加しつつあることから、厚生労働省通知に基づき、L452R 変異株の監視体制を強化するため、健康安全研究所による N501Y スクリーニング検査は、7月19日以降、実施しないこととしました。

※5 民間検査機関等による検査実施数は不明のため、検出数のみ掲載

※6 ゲノム解析の検査結果は不定期で報告されている。

<評価>

令和3(2021)年7月19日(月)～7月25日(日)(令和3年第29週)の川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況は、以下のとおりです。

<感染の状況:直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第1週(1月4日～10日)の1123人をピークとして、第9週120人まで減少。その後再び増加し、第20週(5月17日～23日)502人をピークとし、第24週305人まで減少しましたが、第25週339人から、349人→526人→831人と増加、第29週(今週)はさらに1156人と増加し、第1週のピーク1123人を上回りました。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、第1週(1月4日～10日)の73.40人をピークとして、第9週7.84人まで減少。その後、第20週(5月17日～23日)32.8人をピークとして第24週19.8人まで減少しましたが、第25週22.0人から、22.7人→34.2人→54.0人と増加、第29週(今週)はさらに75.1人と増加し、第1週のピークを上回りました。ステージ分類では、3週連続してステージIV相当(25人以上)となりました。
- ③ 前週との増加比も、第1週(1月4日～10日)の2.08をピークに、第9週0.82まで減少、その後4週間は大きな変動がなく経過しました。第21週0.75から第24週は0.87と低値でしたが、第25週1.11、第26週1.03から、第27週1.51、第28週(前週)は1.58と増加しました。第29週(今週)は1.39と減少しました。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第9週までは40%前後でしたが、第10週から第19週は46～66%を変動し、第20週以降は50%以上、第24週以降は60%以上となり、第27週は62%、第28週(前週)は61%、第29週(今週)は70%とさらに上昇しました。ステージ分類で12週連続してステージⅢ・Ⅳ相当(50%以上)となっています。
- ⑤ 検査陽性率は、第9週3.32%～第14週6.97%と6週間連続して微増。第17週より第20週までステージIV相当が4週間連続しました。第21週は9.7%とステージIVの基準(10%以上)をわずかに下回りステージⅢ。第22週は10.0%でステージIV、第23週8.7%、第24週は8.1%と2週間連続してステージⅢ、第25週は10.2%とステージIV、第26週は9.8%でステージⅢ、第27週は12.9%、第28週(前週)は20.2%と上昇、第29週(今週)は37.2%とさらに上昇し、3週連続してステージIV相当となりました。

<医療提供体制等の負荷:報告日7.25現在>

- ⑥ 入院中の患者数は第16週より、93人→90人→86人→75人と減少しましたが、第20週より再び増加。翌第21週(5月24日～30日)108人をピークとし、その後は第22週より90人→75人→69人→76人→70人と増減していましたが、第27週79人、第28週(前週)99人、そして第29週(今週)は113人とさらに増加しました。
病床使用率は確保病床241床のうち第21週(5月24日～30日)44.8%をピークに、第22週37.3%、第23週31.1%、第24週(28.6%)と減少しました。第25週に入院患者数は増加したものの確保病床数がこれまでの241床から284床に増加したことにより病床使用率は26.8%と第24週よりやや減少。第26週も24.6%と減少しましたが、第27週27.8%、第28週(前週)は34.9%と増加、第29週(今週)は39.8%とさらに増加しました。ステージ分類では、記録を開始した第17週以降これまで13週連続してステージⅢ相当(20%以上)となっています。
- ⑦ 重症入院患者数は第16週より、13人→11人→12人→11人と大きい変動はありませんでした。第20週より16人→24人→23人から、第23週・第24週は12人と減少、第25週から14人→11人→10人、第28週(前週)は13人、第29週(今週)も13人と変動はありませんでした。重症者の病床使用率は確保病床30床のうち、第20週53.3%、第21週80.0%、第22週76.7%と3週連続してステージIV相当(50%以上)でしたが、第23週・第24週は40.0%、第25週は46.7%と増

加したものの、第26週 36.7%、第27週 33.3%と減少、第28週（今週）は43.3%と増加し、第29週（今週）も43.3%と変化はありませんでした。ステージⅢ状態を7週間維持しています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第20週（5月17日～23日）843人をピークとして、第21週より672人→513人→485人→446人、第25週389人と5週連続して減少が続きましたが、第26週は476人、第27週606人、第28週（前週）は935人と急増し、第29週（今週）は1325人とさらに増加しています。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第20週（5月17日～23日）の55.1人をピークに、第21週より43.6人→33.3人→31.5人→29.0人、第25週25.3人と9週連続してステージⅢ相当（20人以上）でしたが、第26週30.9人、第27週39.4人、第28週（前週）60.7人と増加し、第29週（今週）は80.6人とさらに増加し、4週連続してステージⅣ相当（30人以上）となっています。

<変異ウイルス検出状況>

N501Y株スクリーニングについては、従来株からN501Y変異株にほぼ置き換わった一方、市内においてもL452R変異株が増加しつつあることから、厚生労働省通知に基づき、L452R変異株の監視体制を強化するため、健康安全研究所によるN501Yスクリーニング検査は、7月19日以降、実施しないこととしました。したがって直近1週間についてはいずれの項目もゼロとなっています。

L425R株スクリーニングは川崎市健康安全研究所では第24週3件から、1件→2件→6件→20件と増加し、第29週（今週）は52件とさらに増加しました。なお民間検査機関からは第26週4件から、11件→29件、そして29週（今週）57件と、こちらも増加しています。

第29週は、詳細なゲノム解析による分類結果が国立感染症研究所より届き、新たにアルファ株（ α ：英国株）となったものが18件、ベータ株（ β ：南アフリカ株）0件、ガンマ株（ γ ：ブラジル株）0件、デルタ株（ δ ：インド株）が1件でした。これまでの累計は、アルファ株203件、ベータ株0件、ガンマ株0件、デルタ株9件となっています。

7月20日現在、沖縄県と東京都が8月22日まで緊急事態宣言、埼玉県・千葉県・神奈川県・大阪府の4府県が8月22日までまん延防止重点措置地域となっています。

神奈川県では、川崎市・横浜市・相模原市・厚木市がまん延防止重点措置区域となっています。

本市におきましては、第20～21週あたりをピークに新規陽性者数は第24週まで減少しましたが、第25週、第26週は微増、第27週、第28週（前週）は明らかな増加、第29週（今週）はさらに増加し、第1週のピークを上回りました。

入院中患者数は、第27週、第28週（前週）、そして第29週（今週）と明らかに増加。重症入院患者数は第21週の24人がピークでしたが、第23週～第27週は10～14人、第28週（前週）及び第29週（今週）は13人と大きな変動はありませんでした。入院患者の病床使用率はステージⅢを維持し、重症患者病床使用率もステージⅢとなっており、医療提供体制については重症者の増加はないものの、増加傾向となっています。重症患者数の増加はありませんが、新規陽性者数増加に伴って入院患者数を含む療養者数の増加が目立ってきており、十分な注意と警戒が必要です。

ステージ分類の指標となっている6項目（参考数値を除く）のうち、②対人口10万人当たりの新規陽性者数、④感染経路不明割合、⑤検査陽性率、⑨対人口10万人当たりの療養者数、の4項目がステージⅣ、⑥の入院患者病床利用率、⑦の重症患者病床利用率の2項目がステージⅢとなっていることには変わりはありませんが、重症患者の病床使用率を除きいずれも数値は増加しています。

本市のまん延防止措置は継続となっており、大変なご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、新規感染者及び入院者はさらに増加をしており、新規感染者数については第1週のピークを上回っており

ます。人の動きの低下は感染症の減少に一致しますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。どちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数で過ごされますようお願ひいたします。オリンピックも、できるだけ自宅でテレビなどで観戦、応援をしていただければと思います。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、飲食の場あるいは日常生活において、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点です。またこれらの基本は、これまでのウイルスであっても変異型のウイルスであっても共通の、また有効な予防対策法です。

関東地方も厳しい夏の日差しの日々となる一方、台風接近のニュースなどもあります。暑さ対策、水分の補給、場所に応じたマスクの使い分け、そして災害などへの注意・用意もお忘れないうお願ひします。

なおRSウイルスという、0～3歳児に多く見られる呼吸器感染症が例年より早く、多く流行しています。小さい子どもさんのゼコゼコするような咳と熱は、小児科医に早めに相談をしてください。新型コロナウイルスだけが注意すべき感染症ではありません。